

# 人生、遅過ぎなんてない

横浜在住作家 ヒロコ・ムトーさんが出版

## 亡母の活躍ぶり伝記に

横浜市港北区在住の作家、エッセイストのヒロコ・ムトーさん(73)が、激動の人生を送った亡母・マサコさんの伝記「人生いつでも花開く」(写真下)を出版した。生まれ故郷の北九州市ではNHKの朝の連続テレビドラマに推す署名運動まで起きた、ドラマチックな一代記だ。

(佐藤 将人)

マサコさんの次女で作詞 作家としても活躍するヒロコさんとして坂本九さんや郷ひろみさんの歌を手掛け、

故郷・北九州市にあった。鉄道駅として日本初の重要文化財に指定された九州門司港駅が復元工事を経て再オープンすることとなり、豆紙人形作家だった母の作品が展示されることになった。このタイミングで

「鉄道駅として日本初の重要文化財に指定された九州門司港駅が復元工事を経て再オープンすることとなり、豆紙人形作家だった母の作品が展示されることになった。このタイミングで

「平凡な主婦だった母はすごい強さを秘めた女性だった。父にささげた半生が過ぎ、晩年は作品を通じ多くの人に感動を与えた。何か壁にぶち当たったり、諦めかけたりしている人に、人生、何事も遅過ぎるなんてない」と知ってほしい。

情家の夫に振り回されながら

「プライドが高くてすぐに職場を辞め、母への仕打ちもあり得ないことばかり。でも子ども頃の私は一切知らなかった。母は絶

対に愚痴をこぼさなかったし、父を悪く言うこともなかった。家庭を守るために、全部一人で背負った」

伝記は、九州で過ごした「光り輝く少女時代」、激

夫の死後、マサコさんは少女時代からの趣味であった芸術の才能を開花させた。70代から絵を習い始め、目に障害を負い、病と闘いながらも創作をやめず、80代後半からの「豆紙人形」づくりはフランス・パリなど海外での個展へと結実した。その半生を知った故郷の北九州市では、有志が「マサコさんをNHKの朝ドラに」との署名活動を始め、4万筆が集まった。

購入できる。1500円(税別)。



生前のマサコさん(右)と次女で作家のヒロコさん



人生いつでも花開く

本はヒロコさんのホームページ「心の宅急便」から購入できる。1500円(税別)。